社団法人

日本演劇興行協会

会報－No.41

Japan Association of Major Theaters

目　次

劇場等の大規模地震対策について
財団法人 消防科学総合センター
審　議　役　山崎　文徳 …… 3

脚本家養成講座「まずは、台本」
初級コース　講師　釜　紹人 …… 8

昭和四十年代前後の大阪の芝居模様（下）
～新歌舞伎座を中心に～
文芸演劇評論家　河内　厚郎 …… 11

法人会員・賛助会員・特別会員 名簿 …… 14

加盟劇場 名簿

劇場等の大規模地震対策について

財団法人　消防科学総合センター
審議役　山崎　文徳

平成21年6月1日の改正消防法施行により、一定規模以上の防火対象物（防災管理対象物）においては、防火と地震に関する安全対策を盛り込んだ消防計画の作成と消防署への届出及び自衛消防組織の設置が義務付けられることとなった。

このような状況の中で、本年3月11日に東日本大震災が発生したため、当センターでは、防災管理対象物を中心に地震に対する事前対策や発生直後の自衛消防活動等について、東北被災地および首都圏に所在する防火対象物（防災管理対象物）の被害状況調査を行い、各種の教訓等を得たのでその概要を述べてみるが、さらに大規模地震については、防火対象物の規模の大小を問わず事前対策、発生時の活動、教訓等は、ほぼ同じであるので、これらの教訓をもとに劇場等の地震対策について、留意事項等を述べてみたい。

今回の地震の概要は、次の通りである。

1　発生日時

平成23年3月11日（金）14時46分

2　震源及び規模（推定）

三陸沖（北緯38.1度、東経142.9度、牡鹿半島の東南東130㎞付近）
深さ24㎞、モーメントマグニチュード Mw9.0

3　各地の震度（震度6弱以上）

震度7　宮城県北部
震度6強　宮城県南部・中部、福島県中通り・浜通り、茨城県北部・南部、栃木県北部・南部
震度6弱　岩手県沿岸南部・内陸北部・内陸南部、福島県会津、群馬県南部、埼玉県南部、千葉県北西部

4　首都圏（東京都内）

震度5弱～5強
（気象庁ホームページより引用）

調査の結果、東日本大震災において、沿岸部では、想像を絶する多大な津波の被害が発生し、多くの死傷者の発生と建築物等の原形を留めないほど大きな損傷を受けた。

一方、内陸部では、今までに経験したことのないほどの極めて大きな揺れ（震度5強～7）により建物倒壊等の被害は部分的であったが、けが人やエレベーターの閉じ込めや人的被害（津波は除く）等の被害は、相当数発生し、ライフラインや家具等の転倒、落下、移動等の被害は

極めて大きかった。特に長期間にわたる停電や外部からの情報の途絶、幾度となく発生した余震等が、大きな障害となり自衛消防活動や災害対策本部の運営活動等に大きな影響を与えた。

また、首都圏では、震度5弱～5強の強い揺れがあったが、幸い建物損壊やライフライン等の大きな障害は発生しなかったものの、天井落下による死傷者の発生や交通機関(JR、私鉄、地下鉄、バス等)の全面運休に伴う帰宅困難者が非常に多く発生した。

両地域ともに地震発生の直後、各自が身を守り、揺れが収まったら出火防止を図るという基本的活動は、訓練どおり出来たが、従前から行われてきた火災時の訓練とは別に、地震に対する防災訓練をより積極的に行い、消防計画、災害対応マニュアル、自衛消防訓練等の見直し・改善が必要であると考える事業所が多かった。

今回の調査で明らかになった主な事例と教訓等は、以下の通りである。

1　地震発生直後の初動活動について、被災地では地震の揺れが非常に大きく(震度6～7程度)、長い時間揺れていた(数分間続いた)ことから、立っていられないほどであったが、揺れがおさまった後は、事業所の自衛消防隊が、出火防止をはじめ初動対応を行うことができたという事例が多かった。

劇場等でも、同様に揺れがおさまった後は、観客が茫然自失状態であったためか、非常放送や誘導員(案内係)による避難誘導により、パニックにならず比較的静かに避難できた事例があった。

首都圏では、震度が中程度(5弱～5強程度)であったため、ほとんどがその場で身を守ったが、一部に慌てて建物の外へ飛び出す人もおり、劇場等でも同様の傾向があったので、非常放送や案内係等の制止によるパニック防止策等を検討しておく必要がある。

2　地震発生直後の非常放送の活用について、東北被災地では、放送設備の使用はできたが、揺れが激しく放送を行える状態ではなく、揺れがおさまった後もスムーズに放送できなかった事業所が多かった。東北被災地及び首都圏の劇場等でも、同様に非常放送において苦労したとの事例があったので、予め何通りかの放送文を用意しておき、すぐ読み上げられるような事前準備や場内放送と非常用放送の切り替え要領等を検討しておく必要がある。

3　地震発生直後のライフラインについて、東北被災地では電気、ガス、水道等はほとんど途絶したが、特に停電による、照明の消灯、電話回線等の不通、テレビなどによる情報収集の不能、エレベーターの停止等が起こり多くの事業所に大きな影響を与えた。

誘導灯や非常灯などにより、かろうじて薄暗い中での避難経路の確保ができたが、劇場等においても場内の照明が消え、観客の避難誘導等の初動対応に大変苦慮した事例も見受けられた。

首都圏では、停電はなかったが、さらに大きな地震に備えて電源の確保を検討する必要がある。特に劇場等では、地震の恐怖と消灯によるパニック防止策を検討しておく必要がある。

4　情報の収集・伝達において、東北被災地では、テレビや携帯電話等が停電や回線不通により使用不能となり、外部からの情報が途絶し、外部の被害情報の収集、交通機関情報の収集等ができなかった事例が多かった。情報収集は、携帯ラジオや携帯電話のワンセグ機能等によるものが多かった。

首都圏においては、テレビの使用はできたが携帯電話は、ほとんどが回線不通となったため使用できなかった。

特に劇場等では、外部の被害情報の収集、観客の帰りの交通機関情報等の収集と提供方策、電源確保等について検討しておく必要がある。

5　家具や機器等の転倒、落下、移動等につい

て、東北被災地では、7～8割近くの事業所において、何らかの形で被害が発生したが、防止措置が有効に機能し、その必要性を認識した事業所が多かった。

劇場等では、客席や舞台部分の天井、照明、舞台装置等の防止措置を日頃から検討しておく必要がある。実際に首都圏では、天井落下による死傷者も発生している。

6

エレベーターの閉じ込め事案について、地震管制装置の設置により、閉じ込めを防いだケースがかなりあったが、閉じ込め事案の発生事例では、いずれもエレベーター会社の到着が見込めず、長時間閉じ込めが続いたケースが多かった。しかし一部には、エレベーター会社の講習を受けた事業所設備担当者による救出ができた例もあったので、今後の対策をエレベーター会社と練っておく必要がある。

7

帰宅困難者対応については、東北被災地及び首都圏ともに各事業所では、主として従業員用の対応を計画していたが、外部からの一般通行人や近隣住民等が多数押し寄せたためその対応に苦慮した。しかし全般に事業所の自主的な対応により待機スペース、食糧、飲料水等の提供をした事例が多かった。

特に、首都圏では、ターミナル駅に接続する大規模建築物（商業ビル、百貨店、公共施設等）において、交通機関の途絶に伴う帰宅困難者の流入があり、対応に大変苦労したケースが多かった。

劇場等では、特に観客等の帰宅困難者への対応を具体的に検討しておく必要がある。

8

資機材、飲料水、食糧等について、ほとんどの事業所が地震に備えて懐中電灯、携帯ラジオ、救急用品、食糧、飲料水、救出作業資機材（バール、ジャッキ等）等を備蓄していたが、全般に品目、数量等を見直す必要がある。

特に停電対策と外部情報収集手段の確保のため、小型発電機、懐中電灯、携帯ラジオ、衛星電話等の備蓄を重点的に検討する必要がある。

劇場等では、懐中電灯、誘導用小旗、携帯用拡声器等の避難誘導用機材の必要数量の確保とすぐに使用可能な置き場所等の検討が必要である。

9

消防用設備等について、調査によれば、被害が半数以上有り、具体的に多かったのは、自動火災報知設備、誘導灯、屋内消火栓設備、放送設備等の順であった。

また防火戸や防火シャッターが火災ではないのに作動したケース（誤作動等）が半数以上あり、復旧に手間取ったり、避難経路に障害を与える恐れのある事例が多くあった。

10

消防計画、訓練等の見直しについて、東北被災地及び首都圏では、自衛消防隊が消防計画に基づく日常の訓練の経験等から、比較的落ち着いて初期活動ができたとの事業所が多かった。

このことからさらに具体的な活動要領を一人ひとりに訓練を通じて習熟させるような計画や訓練の改善、見直しを行う必要がある。

また初期活動と平行して被害状況の把握と復旧、帰宅困難者対応、食糧、飲料水、毛布等の手配、事業再開等について、長期戦に備えた災害対策本部の設置・運営の重要性を認識した事業所が多かった。

劇場等においても、非常放送や案内係等の観客への呼びかけによるパニック防止や避難誘導等の初期活動と災害対策本部によるその後の対応について、計画やマニュアルの見直し、訓練による円滑な活動を行える方策等を検討する必要がある。

以上のような教訓等を踏まえ、劇場等の演劇、コンサート、式典等の会場使用中の地震対策について考えてみる。

劇場等の初期対応としては、観客のパニック防止と避難誘導、飲食物販売箇所等の出火防止が最も重要である。

1　地震発生時の初期活動をはじめとする対応について

演劇、コンサート等公演中に地震が発生した場合の対策として、次のような対応に留意する必要がある。

(1)観客への対応

・パニック防止は場内放送、舞台上からの主催者、場内の案内係等による呼びかけにより観客を落ち着かせる。たとえば「地震です。この建物は安全ですから慌てずその場で身を守ってください。避難する場合は、係員が、ご案内しますので、落ち着いてその場で待機してください。」などと呼びかける。

・観客は、その場で身を屈める等各自身を守る。

・演劇、演奏等を一時中止する。

・揺れがおさまった後、火災の有無、場内の被害、余震等による危険性等の状況を判断して、ロビーまたは外部への避難誘導を行う。

・避難誘導する場合は、出入り口のドアー毎に誘導係が、付き携帯用拡声器等で「前の方を押さずに落ち着いて私の後についてきてください」等と伝えてドアー毎に順番に避難誘導を行い所定の避難場所へ避難させる。

　ただし火災発生の場合は、ただちに一斉避難誘導を行う。

・避難した観客に地震情報、内外の被害状況、交通機関、今後の見通し等の情報を提供し、しばらくそのまま待機するよう伝え落ち着かせる。

・観客が帰宅できない場合は、交通機関等の回復まで、対応を行うのでそのまま待機してほしい旨を伝えると同時に飲料水、食料等の手配を行う。

(2)出演者への対応

・出演者等へは、舞台上から安全な場所へ退避し、各自身を守るよう指示する。

・特に舞台上の照明器具や舞台装置等の転倒・落下等の危険から素早く安全な場所へ退避するよう指示する。

・コンサートなどの場合は、避難の際の楽器の取扱いを事前に検討しておく必要がある。(高額な楽器と避難障害の恐れとの兼ね合いにより検討しておく)

(3)自衛消防隊各班の活動

・揺れが収まったら消火班等は、ただちに出火危険個所(飲食の調理又は販売所等)へ消火器を携行しながら駆け付け出火防止又は、初期消火を行う。

・火災が発生していなければ、慌てて避難せず被害状況の把握、けが人の有無等を確認して自衛消防隊本部(防災センター等)へ報告するするとともに本部の指示により避難誘導班等を応援する。

・火災が発生している場合は、初期消火により抑えるが、どうしても抑えられず延焼拡大の場合は、ただちに防火区画の設定と同時に全館避難誘導を行い、外部の安全な場所へ避難誘導する。

・けが人が発生した場合は、応急救護所を設置し、そこに集めて応急処置を行う。

・防災センターと協力してエレベーター閉じ込めがないか確認する。

2　地震発生に備えた事前対策について

地震の発生に備えた事前の対策として、次のような事項に留意する必要がある。

・客席の天井落下や照明器具、舞台装置等の転倒、落下、移動等に対する対策を検討し施しておく必要がある。

・場内放送と非常放送の切り替え操作をスムーズに行えるように日頃から訓練して置くとともに放送文の検討をしておく必要がある。

・帰宅困難者の対応(観客及び出演者、従業員等)を検討しておく必要がある。

・避難の場合の舞台上の楽器等の持ち出しについて検討しておく必要がある。(高価な楽器と持ち出しによる避難障害の恐れとの兼ね合い)

・舞台上の演技者又は、演奏者等の安全を守る方策を検討しておく必要がある。(照明、舞台装置等の転倒・落下等)

・非常用発電機の長時間運転が可能な対策を取る(燃料の容量増加や補給体制の確立)

・劇場等としての非常用資機材等の備蓄(懐中電灯、携帯用拡声器、誘導用小旗、ラジオ、小型発電機等)を検討しておく必要がある。

・災害対応訓練については、劇場等の実態によっては、従業員の人数が少ないため一人何役もの活動をせざるを得ない場合もあることから優先度をつけ、パニック防止の放送や呼びかけ、初期消火活動等を最優先で行い、次に避難誘導やけが人の救出救護などを行うなど、少ない人員(一人何役も行えるようにする)でも迅速な対応ができるように訓練を通じて体で覚えておくことが大切である。

・その他、主催者としての検討事項も併せて検討しておく必要がある。

例えば、地震が中ぐらいの場合(震度5弱～5強程度の首都圏の場合など)の主催者側責任者と会場側責任者による公演の続行か中止の決定(この場合、チケットの払い戻しや再上演等の検討)、帰宅困難な観客への対応等について検討しておく必要がある。

以上の通り、東日本大震災の調査から得られた事項と教訓等の概要とこれらを反映した劇場等の地震対策として留意すべき事項について述べてみたが、今回の地震で最も大きな教訓としては、停電対策(電源の確保)と情報収集・伝達対策(情報伝達機器の確保)をいかに確実に実施するかということである。

劇場等については、これらの教訓を踏まえたうえで、地震発生直後の初期活動において、観客のパニック防止と安全な避難誘導を限られた人間で、どのようにしたら効果的に行えるか各劇場等の実情に合わせた訓練を通じて、実効性のある対策を練っておくことが最も重要である。

また劇場等の特殊性から主催者と劇場等所有者が異なる場合は、主催者側と劇場側の防火・防災管理者及び自衛消防隊長等とのお互いの意思疎通を事前に十分図り、緊急時の対処方法を確立しておくことも必要である。

以上

(注)参考文献：「大規模地震対応消防計画の改善見直し・自衛消防訓練マニュアル」
(財)消防科学総合センター発行

脚本家養成講座

「まずは、台本」

初級コース 講師 釜 紹人

「俺は、本が書けないんだよ。ただのぬり絵師だ。一流の演出家だったら、自分で、本を書く。」これ、誰の言葉だと思いますか？

今から三十年前、私は、大学生で、ある民放テレビ局で、アシスタントディレクターのアルバイトをしていました。当時の私は、将来は、ノンフィクションライターになりたいと考えていました。テレビ局でのバイトは、そのための足がかりとして、ジャーナリズムの世界を知るチャンスと思って始めました。ところが、それは、大きな間違いでした。担当したのは、限りなくバラエティーに近い歌番組で、最初の頃こそ、ディレクターのカット割りや、編集作業に興味を持ちましたが、三ヶ月もすると、ジャーナリズムとはほど遠い世界にうんざりしてしまいました。

そんな折、大学の友人が、蜷川さん(もちろん、演出家、蜷川幸雄氏のこと)が、新作を演出するのに、アシスタントを探してるんだけど、やってみないかと、声を掛けてくれました。その友人は、以前、俳優として、蜷川作品に出演していました。しかし、当時の私は、芝居に、そんなに興味があったわけでは、ありませんでした。しばらく、迷っていると、その後、先輩アシスタントとして、色々とお世話になった方から、直接連絡があり、私はあっさり、口説き落とされてしまいました。

講義風景

芝居の世界の初仕事は、三百人以上の俳優が応募してきたオーディションの受け付けでした。終了後、初対面のスタッフさんや、手伝って下さった俳優さんたちと、飲み会に繰り出しました。二次会、三次会と次々にハシゴし、俳優さんたちは、飲めば飲むほど、エスカレート。相手構わず、キスをする。洋服を脱ぎ始める。気がつくと、先輩スタッフは、いつのまにかフェイドアウト。残されたスタッフは、私だけ。終電も、とうになくなり、家に帰れないから、一緒に泊まってくれと、駄々をこねる男優さん。これが、芝居の世界なの？と当惑する私。結局、女優さん一人を足した三人で、連れ込み旅館に泊まることに。とは言え、まさか三人では、泊めてくれないだろうと思い、私は、帳場の前を

匍匐前進。何とか、部屋には、入れたものの、私は、そのまま畳の上で爆睡。気がついたら、朝でした。旅館を出て、そのまま三人で、そば屋に入ると、女優さんが、私に向かって一言。「昨夜は、私が、あなたを守ってあげたのよ。」何と、初日にして、大いなる洗礼を受けました。

しかし、稽古が始まってからは、このお二人には、本当に助けられました。稽古場での私の仕事は、テープレコーダーを操作して、効果音や音楽を流すこと。今では、ボタン操作一つで済む仕事ですが、当時は、オープンリールにテープを掛け替え、いちいち頭出しを確認して音を出す。そのテープレコーダーが五台もあるのです。初心者の私にとっては、緊張の連続です。私が、トチれば、稽古が止まってしまいます。おまけに、蜷川さんの怒鳴り声が、稽古場中に響き渡ります。そんなとき、私を常にかばってくれたのが、一緒にお泊まりをした二人の俳優さんでした。彼らは、蜷川さんをなだめ、氷ついた稽古場の雰囲気を巧みに和らげてくれました。因みに、蜷川さんは、本当に灰皿を投げます。しかし私の囲りには、音響機材があるため、さすがに、灰皿は飛んできませんでした。それでも、何度となく、灰皿は投げられました。

実は、そのとき、稽古場には、大きな問題があったのです。台本が完成していなかったのです。演出家となった、今の私には、当時の蜷川さんのストレスが、どれほどのものであったか、よ

くわかります。毎日、小出しに出て来る台本が、最終的に完成したのは、初日の十日ほど前だったと思います。しかも、その本は、素人の私から見ても、辻褄の合わない矛盾だらけの本でした。それでも、蜷川さんは、一字一句直しません。それが、蜷川さんのポリシーなのです。私には、それが、どうしても納得いきませんでした。とは言え、いくらなんでも、稽古場で、それが言えるほど、私には、度胸がありませんでした。初日が開いて、しばらくして、開演前にロビーを振らついていると、蜷川さんが、いました。辺りには、他に誰もいません。今が、チャンスだと思い、私は、稽古場で考えていた、本に対するかなり辛辣な感想をぶつけてみました。すると、蜷川さんは、反論することもなく、黙って、私の意見を聞いてくれました。

が、やがて、私を悟すかのように、静かに語ってくれたのです。それが、この文章の冒頭に掲げた名台詞です。なんか、格好良すぎだと思いませんか？一流どころか、超一流だからこそ言える、そんな台詞だと思います。

初級講座の皆さん、頑張って、本を書いてみましょう。本がなければ、ぬり絵師の出番もないのです。

試演風景

昭和四十年代前後の大阪の芝居模様（下）

～新歌舞伎座を中心に～

文芸演劇評論家　河内厚郎

上方歌舞伎は昭和三十年代に衰退して滅亡寸前までいったが、片岡仁左衛門（十三世）ら関西に踏みとどまる俳優たちの献身的な尽力により辛うじて生き延びてきた―というのが演劇史の通説となっている。

しかしながら、自分は上方歌舞伎が衰退したなどと思ったことはないと、国立文楽劇場から尼崎市久々知の近松公園まで同乗するタクシーの中で私に語ったのは、「大阪の顔」といわれた初代鴈治郎の孫、坂田藤十郎（当時は中村扇雀）である。長年なじんだ扇雀の名を改め三代目中村鴈治郎を襲名する直前のことであった。大阪松竹から宝塚映画へ、さらに東宝へと移籍し、家族ごと東京へ居を移した身であっても、自分はずっと大阪の芝居をしてきたんだという思いがあったということであった。

事実、東京へ移住した後も、梅田コマ劇場の「コマ歌舞伎」や、新歌舞伎座における女優との共演劇などで、扇雀はかずかずの上方の芝居をこなしていた。梅田コマで昭和四十年に有馬稲子と共演した『浪花の恋のものがたり』（梅川忠兵衛）などを筆者は懐かしく思い出す（この芝居は昭和四十九年新橋演舞場で再演された）。

銀幕で顔の売れた女優と著名な歌舞伎俳優とで一座を組ませるスタイルは、最後の興行師と呼ばれた松尾國三（一八九九～一九八四）と、東宝（東京宝塚）が推し進めた。

大阪歌舞伎座

旧・新歌舞伎座

戦災に遭った東京歌舞伎座の復興に尽力した腕を買われ、松尾國三が昭和二十九年に乗り込んだ千日前の大阪歌舞伎座は、芝居茶屋制度に頼る道頓堀五座の芝居興行から脱皮し、近代的な興行形態を求めた、白井松次郎（一八七七～一九五一）松竹会長が昭和七年に建設、関西演劇の殿堂として昭和期前半に大きな役割を果たした。しかし、ここをホームグランドとする関

昭和39年新歌舞伎座2月興行

西歌舞伎が、頭領格だった阪東寿三郎の没(昭和二十九年)後に内紛をくりかえし、人気花形の中村扇雀を皮切りに離脱者が相次ぐようになって、二千八百人収容という大きなハコをもてあますようになりつつあった。

松尾國三はこの大阪歌舞伎座の閉館を決め、昭和三十三年、御堂筋に面した難波新地に新歌舞伎座を開場させる。設計を担当したのは、昭和を代表する建築家で、日生劇場も手がけた、村野藤吾(一八九一～一九八四)であった。

昭和三十年代当時、商業演劇といえば、新派・新国劇・松竹新喜劇などであったが、大阪新歌舞伎座の開場により〈座長芝居〉や〈女優一座〉が存在感を発揮するようになっていく。

昭和三十八年三月大映をフリーになった「天下の美女」山本富士子は、四月の十一代目市川團十郎との共演、翌年二月の東宝劇団参加…舞台での再出発にことごとく横槍が入った。フリーになった女優にまで邦画界の五社協定が及ぶのかと世間から不思議がられたが、新歌舞伎座の親会社である日本ドリーム観光(前身・千土地興行)が五社協定に縛られないとあって、山本は舞台女優として再出発。初舞台は昭和三十九年四月、松本幸四郎(後の白鸚)の一座であった。

以後、OSK(大阪松竹歌劇団)出身の京マチ子、宝塚歌劇団出身の有馬稲子・淡島千景らが、歌舞伎の大御所や二枚目役者と組んで続々と新歌舞伎座に登場するようになった。岡田茉莉子もその一人だが、のちに東京・大阪の三越劇場での文芸路線を定着させ、松竹の大谷竹次郎会長から新派入りを誘われたと自伝に記している。

新歌舞伎座の座長芝居では、長谷川一夫が二十二年間連続出演を誇り、二十六回のうち十回は初春興行であった。初代鴈治郎の門弟らしい和事味の漂う艶冶な舞台は長谷川歌舞伎とも呼ばれ、山本富士子とは天下の美男美女コンビを組んで観客を沸かせた。

同じく歌舞伎界出身の大川橋蔵も新歌舞伎座に十六回出演。橋蔵公演には片岡仁左衛門(十三世)が毎年のように付き合い、中幕では歌舞伎舞踊の『落人』や『舟弁慶』、梅川忠兵衛やお初徳兵衛の道行等で共演した(橋蔵は女形をつとめた)。昭和四十七年十月、橋蔵が弁天小僧を演じた折は、仁左衛門の日本駄右衛門が大詰の「極楽寺山門」まで演じたのが話題となった。

その翌十一月、山本富士子の座長公演に特別出演した実川延若(三世)は、得意の踊りとケレンを『大津絵道成寺』で披露。当時売り出し中の片岡孝夫(現・仁左衛門)も有馬稲子と『江島生島』で共演したり、山田五十鈴の『淀どの日記』に秀頼の役で出たりしている。

新派の『残菊物語』では、主人公と同名の尾上菊之助(現・菊五郎)が水谷八重子(先代)と夫婦役で共演。他にも印象深い座組としては、中村勘三郎(先代)や尾上松緑と山田五十鈴、市川寿海とその養子・市川雷蔵の一座というのもあった。

テレビが全国の家庭に普及し娯楽が多様化していく昭和三十年代後半から四十年代を通じ、こうした組み合わせの妙を編み出すのが大劇場公演の華となっていく。個人客より団体客の誘致に重きが置かれるようになり(東京歌舞伎座のような幕見席が大阪から失われたのも好劇家を減らせた一因ではなかったか)、とりわけ男性の演劇離れが甚だしく、そのぶん女性観客の占める割合が増大し、そこに人気スターを中心にした座長芝居が大きな比重を持つようになっていった。実力を有しながら甘いムードを欠く、新国劇のような男っぽい劇団は観客動員が苦しくなっていったのである。

高度成長期は芸能においても専門店から総合店へと移行する時期で(今は再び専門店化しつつある)、演劇のデパートさながらに各種の芝居を豪華な出演者陣で見せようとする新歌舞伎座や梅田コマ劇場に比べ、道頓堀の中座や朝日座における純歌舞伎の一座は地味に映ったものである。

当時、道頓堀では藤山寛美を中心とする松竹新喜劇が人気だったが、昭和四十七年三月、中座の舞台へ八年ぶりに登場した二代目鴈治郎が曽我廼家十郎を(その妻を英つや子)、新派の金田龍之介が曽我廼家五郎を、新国劇の島田正吾が沢田正二郎を演じ、新喜劇の源流である曽我廼家喜劇が明治期に誕生したいきさつを描いた芝居(タイトルは忘れた)を懐かしく思い出す。

その松竹新喜劇も、新派も、昔日の面影はなく、新国劇は消滅してしまった。隆盛を誇った座長芝居も圧倒的な存在感を示すスターが減りつつあるが、歌舞伎はしたたかに生き延びてきた。

新歌舞伎座のプログラム

(社)日本演劇興行協会　法人会員名簿

平成23年12月現在(五十音順)

	会社名	代表者名	住所
関東	株式会社イヤホンガイド	代表取締役社長　久門　隆	104-0061　東京都中央区銀座3-14-1 銀座3丁目ビル5F
	有限会社大久保化学工業	代表取締役　大久保政彦	103-0008　東京都中央区日本橋中洲4-15
	歌舞伎座(松竹)	代表取締役社長　迫本　淳一	104-0061　東京都中央区銀座4-12-15
	NPO法人キッズエクスプレス21	理事長　竹井　純	104-0042　東京都中央区入船3-2-7第2明治ビル6F
	株式会社コマ・スタジアム	代表取締役社長　大隈　廣	160-0021　東京都新宿区歌舞伎町2-44-1 ハイジア9F
	サンシャイン劇場(松竹)	代表取締役社長　松本　康男	170-8630　東京都豊島区東池袋3-1-4
	シアタークリエ(東宝)	代表取締役社長　島谷　能成	100-8415　東京都千代田区有楽町1-2-1
	松竹衣裳株式会社	代表取締役社長　酒井　誠一	104-0041　東京都中央区新富2-2-8
	株式会社ショウビズスタジオ	代表取締役社長　橋本　幸喜	104-0061　東京都中央区銀座1-28-5
	新橋演舞場(松竹)	代表取締役社長　迫本　淳一	104-0061　東京都中央区銀座6-18-2
	株式会社タカサゴ	代表取締役社長　新倉　康榮	171-0031　東京都豊島区目白1-1-1
	帝国劇場(東宝)	代表取締役社長　島谷　能成	100-0005　東京都千代田区丸の内3-1-1
	藤浪小道具株式会社	代表取締役社長　湯川　彰	111-0032　東京都台東区浅草6-2-6
	株式会社紅三	代表取締役社長　阿部　晋悟	130-0024　東京都墨田区菊川3-13-3 K'sビル2F
	株式会社明治座	代表取締役社長　三田　芳裕	103-0007　東京都中央区日本橋浜町2-31-1
	株式会社WOWOWコミュニケーションズ	代表取締役社長　井上陽二郎	220-8080　神奈川県横浜市みなとみらい3-3-1 三菱重工横浜ビル18F
中京	株式会社中日新聞社	代表取締役会長　白井　文吾	460-8511　愛知県名古屋市中区三の丸1-6-1
	株式会社御園座	代表取締役社長　長谷川栄胤	460-8403　愛知県名古屋市中区栄1-6-14
関西	大阪松竹座(松竹)	代表取締役社長　迫本　淳一	542-0071　大阪府大阪市中央区道頓堀1-9-19
	京都南座(松竹)	代表取締役社長　迫本　淳一	605-0075　京都府京都市東山区四條大橋東詰
	株式会社新歌舞伎座	代表取締役社長　川瀬　昌弘	543-0001　大阪府大阪市天王寺区上本町6-5-13
九州	株式会社博多座	代表取締役社長　芦塚日出美	812-8615　福岡県福岡市博多区下川端町2-1

(社)日本演劇興行協会　賛助会員名簿

平成23年12月現在(五十音順)

	会社名	代表者名	住所
関東	株式会社アズミコーポレーション	代表取締役　小林　康博	333-0866　埼玉県川口市芝4-7-24
	有限会社アトリエ・カオス	代表取締役　田中　義彦	156-0056　東京都世田谷区八幡山1-1-15
	株式会社アヤベ洋菓子	代表取締役社長　綾部　清	121-0812　東京都足立区西保木間1-22-6
	株式会社エス・ピー・ディ明治	代表取締役社長　井田　浩司	103-0007　東京都中央区日本橋浜町2-31-1 明治座アネックスビル
	演舞場サービス株式会社	代表取締役社長　岡副　昭吾	104-0061　東京都中央区銀座6-18-2
	株式会社歌舞伎座	代表取締役社長　大谷　信義	104-0061　東京都中央区銀座7-15-5 共同ビル5階
	歌舞伎座舞台株式会社	代表取締役社長　金田　栄一	104-0061　東京都中央区銀座7-15-5 共同ビル4階
	有限会社菊地商事	代表取締役　菊地　正夫	162-0834　東京都新宿区北町40番地
	熊谷印刷株式会社	代表取締役社長　岡田　智夫	104-0045　東京都中央区築地3-3-12
	サンピアンかわさき	館長　足立　公司	210-0011　神奈川県川崎市川崎区富士見2-5-2
	新橋演舞場株式会社	代表取締役会長　岡副　昭吾	104-0061　東京都中央区銀座6-18-2
	成旺印刷株式会社	代表取締役社長　中田　久士	105-0014　東京都港区芝2-1-28

賛助会員名簿

	会社名	代表者名	住所
	株式会社テクノ三紫	代表取締役　小野　雅司	103-0008　東京都中央区日本橋中洲4-15-401
	東急パーキングシステムズ株式会社	代表取締役社長　田村　英雄	108-0023　東京都港区芝浦4-3-4 田町きよたビル5F
	東京昭和運輸株式会社	代表取締役　岩田　敏雄	187-0004　東京都小平市天神町2-59-1
	東京帝国警備保障株式会社	代表取締役社長　島居　眞文	170-0005　東京都豊島区南大塚3-47-1 オーエスビル6F
	株式会社東宝コスチューム	取締役社長　國井　祐嗣	151-0043　東京都渋谷区笹塚3-22-3
	株式会社東宝サービスセンター	代表取締役社長　守屋　俊男	100-0006　東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル
	東宝舞台株式会社	代表取締役社長　島田　達也	339-0025　埼玉県さいたま市岩槻区釣上新田1048-1
	東宝不動産株式会社	代表取締役社長　八馬　直佳	100-0006　東京都千代田区有楽町1-5-2
	杜陵印刷株式会社	代表取締役社長　大野　志郎	112-0002　東京都文京区小石川3-35-13
	株式会社宝円堂	代表取締役　阿多　亨	104-0041　東京都中央区新富1-5-5
	有限会社ホー・ユー企画	代表取締役社長　宇佐美　肇	171-0021　東京都豊島区西池袋3-33-24-401
	株式会社宮澤商店	取締役社長　宮澤　武	111-0032　東京都台東区浅草6-5-1
	明治座事業株式会社	代表取締役社長　三田　芳裕	103-0007　東京都中央区日本橋浜町2-31-3
	明治座舞台株式会社	代表取締役社長　三田　芳裕	103-0007　東京都中央区日本橋浜町2-31-3
	株式会社よどや	代表取締役　森　久榮	111-0035　東京都台東区西浅草3-12-8
中京	鵜飼興業株式会社	代表取締役社長　神谷　武彦	460-0008　愛知県名古屋市中区栄1-6-14 御園座会館6F
	株式会社華新	代表取締役社長　土井　信策	468-0053　愛知県名古屋市天白区植田南3-309 華新ビル
	有限会社藤井照明	取締役社長　藤井　幹伸	464-0075　愛知県名古屋市千種区内山3-1-15
	株式会社山二製材所	代表取締役　児玉　正光	454-0012　愛知県名古屋市中川区尾頭橋通1-25
関西	株式会社関西再資源ネットワーク	代表取締役社長　福田　裕司	592-8331　大阪府堺市西区築港新町4丁2番5号
	有限会社関西照明設備研究所	代表取締役　河本　康夫	552-0007　大阪府大阪市港区弁天3-15-9
	佐川印刷株式会社	代表取締役　木下　宗昭	617-0003　京都府向日市森本町戌亥5-3
	三精輸送機株式会社	代表取締役　中川　実	564-0063　大阪府吹田市江坂町1-13-18
	たつた舞台株式会社	代表取締役　立田　豊	542-0071　大阪府大阪市中央区道頓掘1-9-19 大阪松竹座
	野田福	代表取締役　野田　達子	560-0026　大阪府豊中市玉井町1-10-21
	学校法人野辺野学園	理事長　山中　理	514-1121　三重県津市久居二ノ町1855
	株式会社プログレ	代表取締役社長　山本　進	530-0003　大阪府大阪市北区堂島2-1-27 桜橋千代田ビル
	山田不動株式会社	代表取締役社長　山田　崇博	604-8414　京都府京都市中京区西ノ京小倉町22
新潟	愛商新潟有限会社	代表取締役　長谷川久美子	955-0041　新潟県三条市三竹1-1-33
	カザマスチール有限会社	代表取締役　風間　誠	959-1264　新潟県燕市八王寺1538-3
	株式会社つばめブックセンター	代表取締役　武田　大介	959-1200　新潟県燕市大字東太田2918
	有限会社フジテツ	代表取締役　藤森トモ子	959-1264　新潟県燕市大字八王寺26-2
	株式会社丸雅商会	代表取締役　杉村　英治	955-0082　新潟県三条市西裏館2-6-11

(社)日本演劇興行協会　特別会員

平成23年12月現在

	会社名	代表者名	住所
	財団法人都民劇場	理事長　河竹登志夫	104-8077　東京都中央区銀座5-1-7 数寄屋橋ビル6F

社団法人 日本演劇興行協会・加盟劇場名簿

（五十音順）

	劇　場	経営法人	支配人	住　　所	電　話	定員
東京	**歌　舞　伎　座**	松竹株式会社	建替え中（2013年春　完成予定）			
	株式会社コマ・スタジアム		木村　慎	160-0021　東京都新宿区歌舞伎町2-44-1	03-3202-2511	
	サンシャイン劇場	松竹株式会社	松井　理	170-8630　東京都豊島区東池袋3-1-4文化会館	03-3987-5281	832
	新橋演舞場	松竹株式会社	船越　直人	104-0061　東京都中央区銀座6-18-2	03-3541-2600	1,428
	帝　国　劇　場	東宝株式会社	阿部　聖彦	100-0005　東京都千代田区丸の内3-1-1	03-3213-7221	1,917
	シアタークリエ	東宝株式会社	山﨑奈保子	100-0006　東京都千代田区有楽町1-2-1	03-3591-2400	611
	明　治　座	株式会社明治座	野田　勇樹	103-0007　東京都中央区日本橋浜町2-31-1	03-3660-3939	1,368
中京	**中　日　劇　場**	株式会社中日新聞社	鈴木　泰彦	460-0008　愛知県名古屋市中区栄4-1-1中日ビル	052-263-7190	1,444
	御　園　座	株式会社御園座	谷本　公成	460-8403　愛知県名古屋市中区栄1-6-14	052-222-8210	1,656
関西	**新歌舞伎座**	株式会社新歌舞伎座	大竹　進	543-0001　大阪府大阪市天王寺区上本町6-5-13	06-7730-2121	1,453
	大阪松竹座	松竹株式会社	吉浦　高志	542-0071　大阪府大阪市中央区道頓掘1-9-19	06-6214-2211	1,033
	南　　座	松竹株式会社	国越　稔弘	605-0075　京都府京都市東山区四条大橋東詰	075-561-1155	1,086
九州	**博　多　座**	株式会社博多座	満尾　正彦	812-8615　福岡県福岡市博多区下川端町2-1	092-263-5858	1,490

発　行　日　平成２３年１２月
編集・発行　社団法人　日本演劇興行協会事務局
発　行　所　東京都中央区銀座１丁目２７番８号セントラルビル
TEL. ０３（３５６１）３９７７